

# エコアクション21

2024年度 環境経営レポート

〔 自 2024年 4月  
至 2025年 3月 〕

私たちは、廃棄物を  
新たな資源として利活用するため、  
お客様と共に循環利活用を目指し、  
環境保全に貢献してまいります。

Next Solution with You



株式会社 関西再資源ネットワーク

## 目 次

---

[1]	環境経営方針	・・・	1
[2]	事業の概要	・・・	2
[3]	認証・登録の対象組織・活動	・・・	6
[4]	主な環境負荷の実績	・・・	8
[5]	環境経営目標及びその実績	・・・	9
[6]	主な環境経営計画の内容と取組結果の評価	・・・	12
[7]	環境関連法規の遵守状況の確認並びに違反・訴訟等の有無	・・・	16
[8]	総 括（代表者による全体の評価と見直し・指示）	・・・	17
[9]	環境活動の紹介及び緊急事態対応訓	・・・	19

# [1] 環境経営方針

## 環境経営方針

### 理念

株式会社 関西再資源ネットワークは、循環型社会の構築を目指し、「廃棄物」をバイオマスと位置付け、日本古来の炭化技術を工業化し、炭化物として有効利活用する事業を行うと共に、自然との共生をはかり、環境に配慮した事業活動を推進します。

### 行動方針

1. 事業活動における環境負荷の低減や環境改善をはかるため、次の事項について継続的に取り組みます。

1) 省エネルギー（電力、燃料等）と温暖化ガス発生抑制に努めます。



2) 省資源活動（電力、水等）の促進に努めます。



3) 廃棄物の削減と、適正な廃棄物処理、リサイクルの推進に努めます。



4) 事業活動に使用する備品、消耗品の効率的使用を心がけ、環境にやさしい商品を選ぶようにします。



5) Jクレジット認証に基づく炭素削減の促進に努めます。



2. 事業活動に関わる環境関連法規、条例、その他の要求事項を遵守します。



3. 環境教育を通じて、環境保全に対する社員の理解と意識向上に努め、社員が自主的に環境保全に取り組むことができる体制を構築します。



4. 事業活動を通じて提供するソリューションが、SDGsに基づき開発され実施されているかを評価し、課題とチャンスを確認した上で、具体的な行動計画を策定・実施いたします。



5. この環境経営方針を全従業員および事業関係者に周知すると共に、一般の人が入手可能なものにします。



制定日：2009年 4月1日

改定日：2025年3月20日

代表取締役 **福田 裕司**

## [2] 事業の概要

### 1. 名称及び代表者名

株式会社 関西再資源ネットワーク本社・第一工場・第二工場 代表取締役 福田 裕司  
大阪支社  
サステナブルジャパン株式会社

### 2. 所在地

本社・第一工場・第二工場 大阪府堺市西区築港新町4丁2番5  
大阪支社 大阪府大阪市東住吉区公園南矢田2丁目16番5号  
サステナブルジャパン株式会社 大阪府大阪市東住吉区公園南矢田2丁目16番5号

### 3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

責 任 者 株式会社 関西再資源ネットワーク 次長 TEL：072-320-9001  
担 当 者 株式会社 関西再資源ネットワーク 係長 TEL：072-320-9001

### 4. 事業内容

食品バイオマスの炭化事業、一般廃棄物収集運搬業、廃プラスチック圧縮梱包

### 5. 事業の規模

本社・大阪支社	資本金	5,000万円（2025年3月31日現在）
	売上高	13.17億円（2024年度）
	従業員数	計31名（2025年3月31日現在）
（第一工場）	施設の種類	炭化施設
	処理能力	105 t/24 h（200 m <sup>3</sup> /24 h）
	延床面積	2,345.20 m <sup>2</sup> 事務所棟 259.00 m <sup>2</sup>
（第二工場）	施設の種類	積替え・保管施設
	延床面積	3,500.00 m <sup>2</sup> 事務所棟 58.32 m <sup>2</sup>
	積替え・保管施設の面積	1,750 m <sup>2</sup>
	積替えのための保管上限	592.34 m <sup>3</sup>
サステナブルジャパン株式会社	資本金	2,000万円（2025年3月31日現在）
	売上高	5.01億円（2024年度）
	従業員数	計29名（2025年3月31日現在）
	延床面積	事務所棟 119.50 m <sup>2</sup>

## 6. 法人設立年月日

本社・堺工場	2004年1月
大阪支社	2020年1月
サステナブルジャパン株式会社	1980年1月

## 7. 事業年度

4月～3月（今回の活動対象期間は、2024年4月から2025年3月まで）

## 8. 許可関係

種類	発行者	許可番号	新規許可	有効年月日	取扱いの種類	
再生利用 事業登録	農林水産大臣 経済産業大臣 環境大臣	27-4-3	H20.3.25	R10.3.24	炭化の過程を経て製造される 燃料及び還元剤を製造する事業	
産業廃棄物 処分業	堺市	第06720 133669号	H19.2.15	R9.2.14	汚泥、廃酸、廃アルカリ（以上 3種類については、食品系廃棄 物に限る）、木くず、動植物性 残さ	
一般廃棄物 処分業	堺市	第A-3号	H19.2.15	R9.2.14	食品系廃棄物（事業系一般廃棄 物であって、再生利用できるも のに限る）	
一般廃棄物 収集運搬業	堺市	第111号	H21.7.1	R9.6.30	事業系ごみ（動植物性残渣、木く ず、紙くず、繊維くず）  事業系ごみ	
	大阪市	大阪支社	第090-002号	H25.10.1		R7.9.30
		サステナブル ジャパン(株)	第003-132号	H12.3		R8.3.31

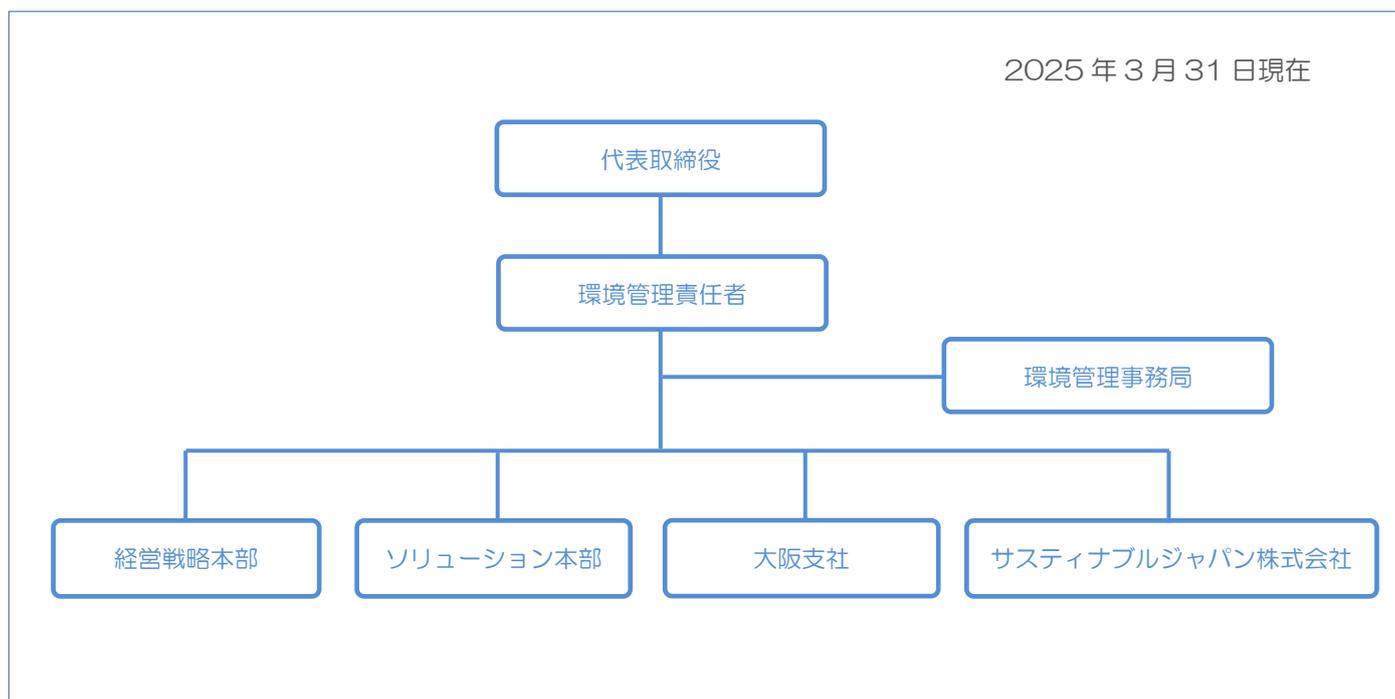
## 9. 保有する運搬車両

本 社	2tパッカー車	2台
	3tパッカー車	4台
	4tパッカー車	1台
	8tパッカー車	1台
	2tダンプ車	1台
	4tコンテナ車	1台
大 阪 支 社	3tパッカー車	2台
サステナブルジャパン株式会社	2tパッカー車	3台
	3tパッカー車	10台

## 10. 処分及び収集運搬の実績（2024年4月から2025年3月まで1ヶ年の実績）

本 社	処 分	20,781 m <sup>3</sup>
	収集運搬	6,885 m <sup>3</sup>
大 阪 支 社	収集運搬	5,742 m <sup>3</sup>
サステナブルジャパン株式会社	収集運搬	23,614 m <sup>3</sup>

## 11. 環境経営システム組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備
	・環境管理責任者の任命
	・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知
	・環境経営目標、環境経営計画書の承認
	・代表者による全体の評価と見直しの実施
	・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表の承認
	・環境経営目標、環境経営計画書の確認
	・環境活動の取組結果の代表者への報告
	・環境経営レポートの確認
環境管理事務局	・環境管理責任者の補佐、関連会議の事務局
	・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施
	・環境経営目標、環境経営計画書の原案の作成
	・環境活動の実績集計
	・環境関連法規等取りまとめ表の作成
	・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付）
部門長	・自部門における環境経営システムの実施
	・自部門における環境経営方針の周知
	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
	・特定された項目の手順書の作成及び運用管理
	・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性の自覚
	・決められたことを守り、自主的・積極的な環境活動への参加

### [3] 認証・登録の対象組織・活動

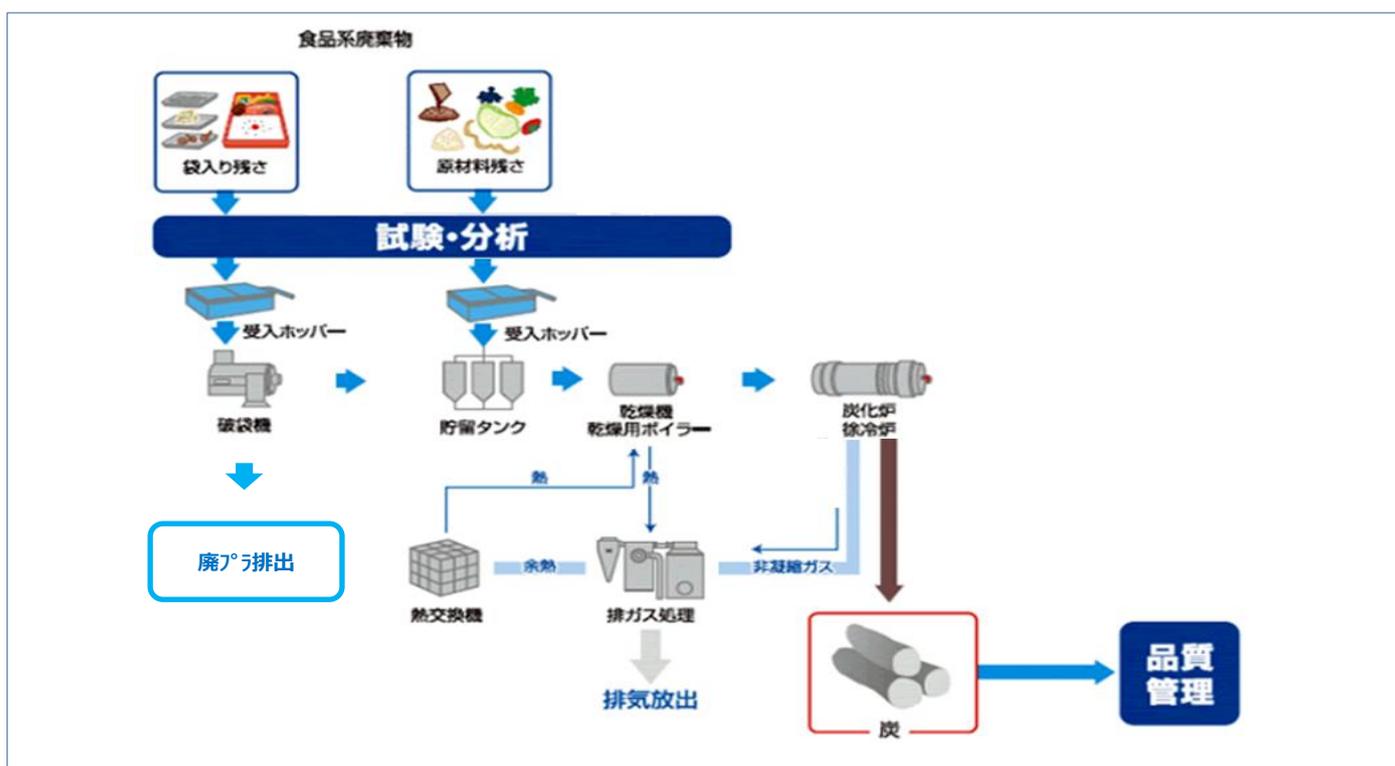
#### 1. 対象活動範囲

- 食品バイオマスの炭化事業
- 一般廃棄物収集運搬業
- 廃プラスチック圧縮梱包

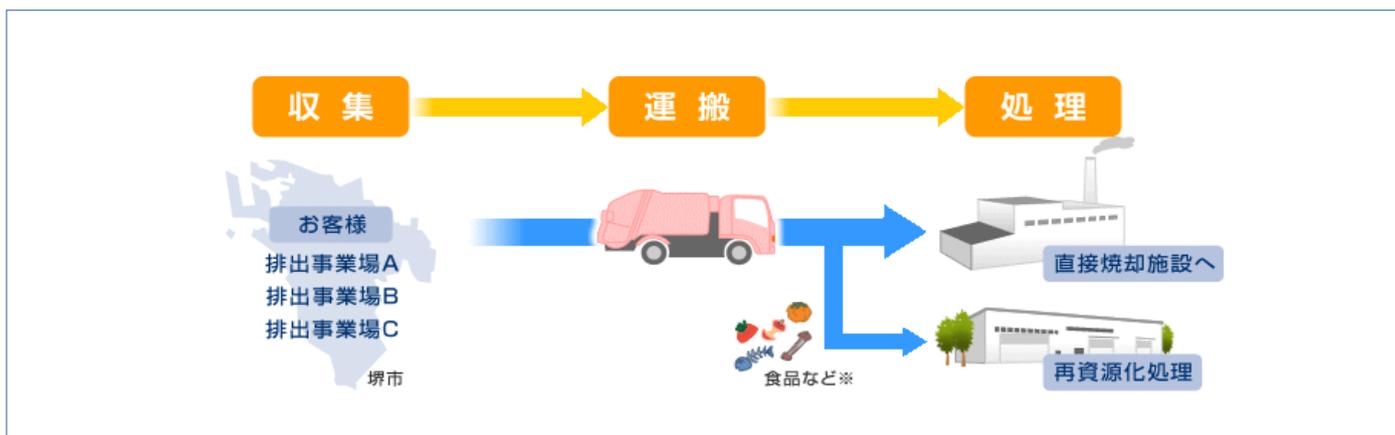
#### 2. 登録組織名

株式会社 関西再資源ネットワーク（本社・大阪支社・サステナブルジャパン株式会社）

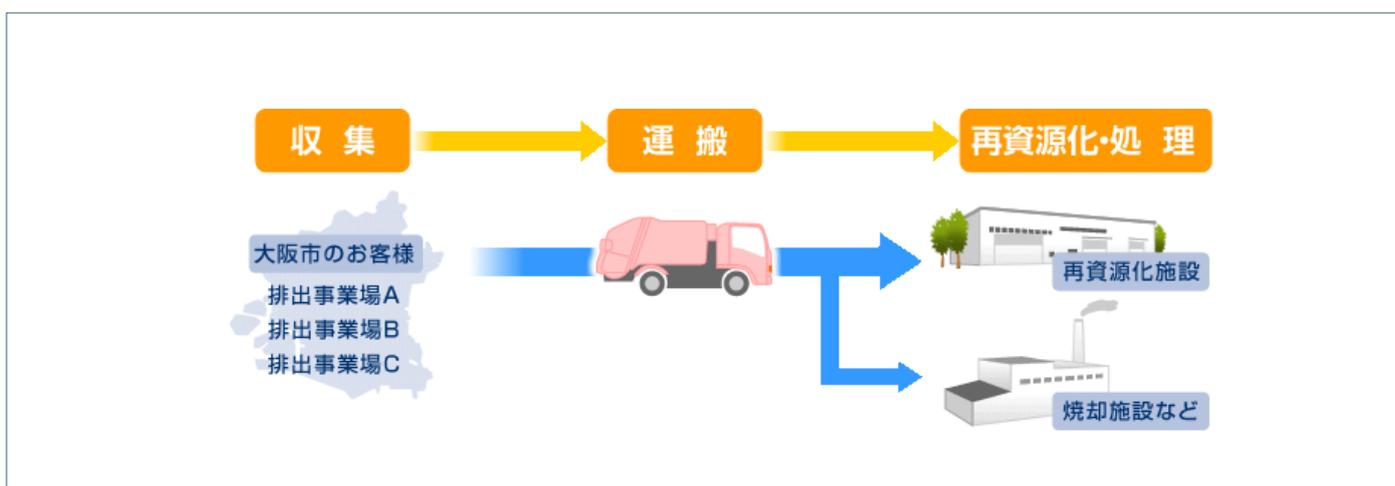
#### 3. 再資源化（処理フロー）



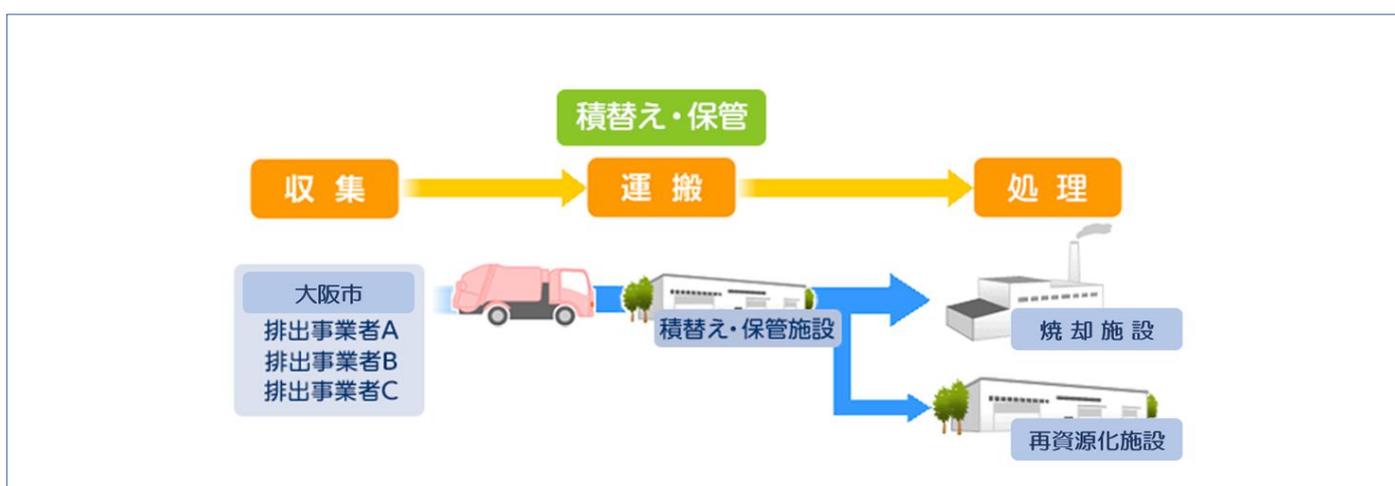
#### 4. 収集運搬（堺市内事業系一般廃棄物）



#### 5. 収集運搬（大阪市内事業系一般廃棄物）



#### 6. 積替え・保管



#### 7. 処理料金

性状、形状、数量等により異なりますので、詳しくは、営業担当（TEL：072-320-9001）までお問い合わせください。無料にてお見積りをさせていただきます。

## [4] 主な環境負荷の実績

### 環境負荷の実績

項目	単位	対象	2022 年度	2024 年度	
			(基準年度)	(実績)	
二酸化炭素排出量 (対象：エネルギー総量)	kg-CO <sub>2</sub>	本 社	1,511,334	1,618,258	
		サステイナブル ジャパン (株)	402,203	501,832	
		全 社	1,913,537	2,120,090	
廃棄物排出量	t	本 社	914.64	1,283.90	
		サステイナブル ジャパン (株)	0.29	0.16	
		全 社	914.92	1,284.06	
廃棄物排出量 (原単位)	t / t	本 社	0.0883	0.1259	
項目	単位	対象	2022 年度	2024 年度	
			(基準年度)	(実績)	
水使用量	上水	m <sup>3</sup>	本 社	991.3	1,178.2
			サステイナブル ジャパン (株)	138.0	139.0
			全 社	1,129.3	1,317.2
	工業用水	m <sup>3</sup>	本 社	14,144.2	19,540.9
水使用量 (原単位)	上水	m <sup>3</sup> /人	本 社	0.147	0.151
	工業用水	m <sup>3</sup> /t	本 社	1.355	1.885

※本社の電気使用量によるCO<sub>2</sub>排出係数は、基準年の2022年度の数値は7月まで0.377kg-CO<sub>2</sub>/kWh(中電2021年度実績：調整後排出係数)、8月から0.350kg-CO<sub>2</sub>/kWh(関電2021年度実績：調整後排出係数)で計算

※サステイナブルジャパン株式会社の電気使用量によるCO<sub>2</sub>排出係数は、基準年の2022年度の数値は0.418kg-CO<sub>2</sub>/kWh(関電2017年度実績：調整後排出係数)で計算

※両社とも、2024年度目標及び実績値は0.419kg-CO<sub>2</sub>/kWh(関電2023年度実績：調整後排出係数)で計算

※その他の排出係数は、2023年度より変更

## [5] 環境経営目標及びその実績（全社）

### 1. 環境経営目標及びその実績

CO <sub>2</sub> 排出量の削減		使用量(原単位:平均)				
		2022年	2024年		2025年	2026年
		【基準年度】	【目標】	【実績】	【目標】	【目標】
本 社 (kg-CO <sub>2</sub> )		1,511,334	1,585,062	1,618,258	1,585,062	1,585,062
電力の削減	使用量 (kWh)	1,145,242	1,145,127	1,126,166	1,145,127	1,145,127
	原単位 (kWh/t)	110.649	110.638	72.021	110.638	110.638
軽油の削減	使用量 (L)	78,547	78,468	92,765	78,468	78,468
	重機原単位 (L/h)	2.222	2.222	3.218	2.222	2.222
	収集車原単位 (L/km)	0.213	0.213	0.191	0.213	0.213
灯油の削減	使用量 (L)	360,227	359,867	361,340	359,867	359,867
	原単位 (L/t)	34.921	34.917	34.680	34.917	34.917
サステナブルジャパン (kg-CO <sub>2</sub> )		402,203	407,440	501,832	407,440	407,440
電力の削減	使用量 (kWh)	26,587	26,584	29,269	26,584	26,584
ガソリンの削減	使用量 (L)	13,090	13,080	10,118	13,080	13,080
軽油の削減	使用量 (L)	139,815	139,675	178,014	139,675	139,675
環境配慮目標 (炭素削減効果の促進)		-	2024年		2025年	2026年
		【基準年度】	【目標】	【実績】	【目標】	【目標】
本社	炭素削減量 (kg-C/t-wet)	-	-	94.921	94.923	94.923

※本社の電気使用量によるCO<sub>2</sub>排出係数は、基準年の2022年度の数値は7月まで0.377kg-CO<sub>2</sub>/kWh(中電2021年度実績:調整後排出係数)、8月から0.350kg-CO<sub>2</sub>/kWh(関電2021年度実績:調整後排出係数)で計算

※サステナブルジャパン株式会社の電気使用量によるCO<sub>2</sub>排出係数は、基準年の2022年度の数値は0.418kg-CO<sub>2</sub>/kWh(関電2017年度実績:調整後排出係数)で計算

※両社とも、2024年度目標及び実績値は0.419kg-CO<sub>2</sub>/kWh(関電2023年度実績:調整後排出係数)で計算

※炭素削減効果の促進については、炭化による食品循環資源1トン当たりの炭素削減量の実績値を示す

廃棄物の削減		2022年	2024年		2025年	2026年
		【基準年度】	【目標】	【実績】	【目標】	【目標】
本社	排出量 (t)	914.64	913.72	1,283.90	913.72	913.72
	原単位 (t:廃棄/受入)	0.0883	0.0883	0.1259	0.0883	0.0883
サステナブル ジャパン	排出量 (t)	0.29	0.29	0.16	0.29	0.29
全社	排出量 (t)	914.92	914.01	1,284.06	914.01	914.01
水使用量の削減		2022年	2024年		2025年	2026年
		【基準年度】	【目標】	【実績】	【目標】	【目標】
本社	上水 (m <sup>3</sup> )	991.3	981.4	1,178.2	981.4	981.4
	原単位 (m <sup>3</sup> /人)	0.147	0.147	0.158	0.147	0.147
	工業用水 (m <sup>3</sup> )	14,144.2	14,002.8	19,540.9	14,002.8	14,002.8
	原単位 (m <sup>3</sup> /t)	1,355	1,355	1,885	1,355	1,355
サステナブル ジャパン	上水 (m <sup>3</sup> )	138.0	136.6	139.0	136.6	136.6
全社	上水 (m <sup>3</sup> )	1,129.3	1,118.0	1,317.2	1,118.0	1,118.0
	工業用水 (m <sup>3</sup> )	14,144.2	14,002.8	19,540.9	14,002.8	14,002.8

※水使用量削減の本社原単位については、上水を従業員数、工業用水は受入量からの算出とする

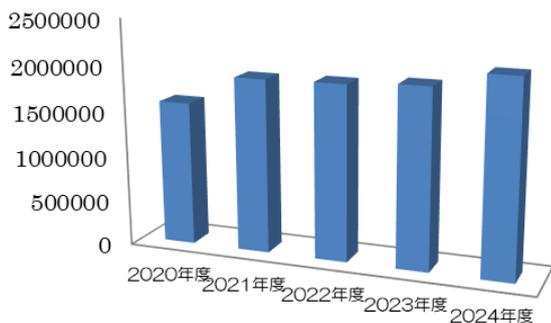
## 2. 環境負荷の推移（過去5年分）

株式会社関西再資源ネットワーク（以下KSN）及びサステナブルジャパン株式会社（以下SJ）におけるCO<sub>2</sub>排出量と関連する項目（総量）をグラフ化しました。

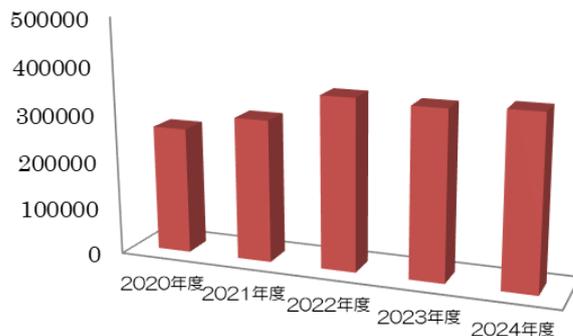
KSN及びSJの今年度の電力のCO<sub>2</sub>排出量の排出係数につきましては、0.419kg-CO<sub>2</sub>/kWh（関電2023年度実績：調整後排出係数）で計算しております。

電気・軽油におきましては、2024年度より第二工場が本格稼働したことに伴って使用量が増えております。

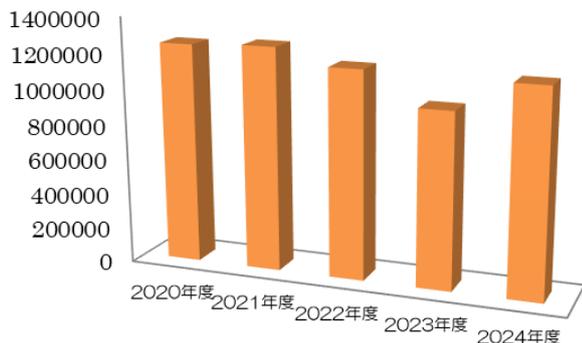
### CO<sub>2</sub>排出量 (kg-CO<sub>2</sub>)



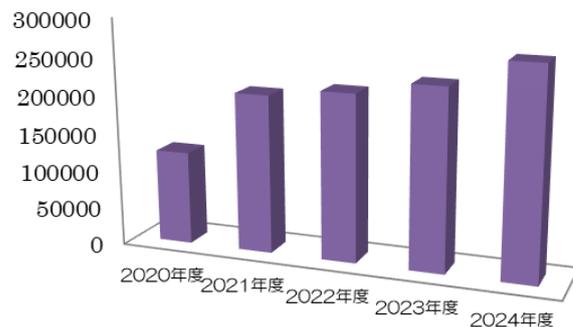
### 灯油 (ℓ)



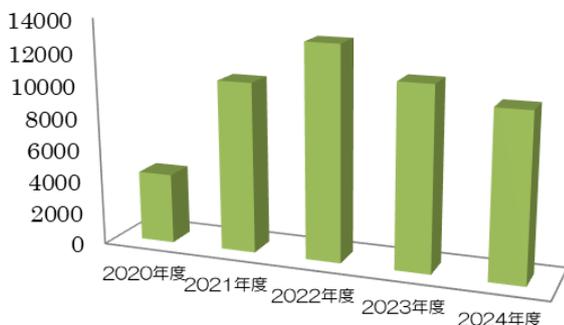
### 電気 (kWh)



### 軽油 (ℓ)



### ガソリン (ℓ)



## [6] 主な環境経営計画の内容と取組結果の評価

### 主な環境経営計画内容と取組結果

実績/目標		取組内容	削減率	結果	評価及び次年度の取組
CO <sub>2</sub> 排出量の削減					
本社					
電力の削減					
目標	1,145,127kWh	1.昼食時及び不使用 部屋消灯 2.エアコン設定温度 管理 3.デマンド管理	98.3%	○	・目標達成。 ・左記取組を継続実施。基準年度を 変更し、工場ごとに区別する。
実績	1,126,166kWh				
原 単 位	目標 110.638kWh/t 実績 72.021kWh/t			65.1%	○
軽油の削減					
目標	78,468L	1.アイドリング ストップの徹底 2.計画的収集運搬の 実施 3.急ブレーキ、急発進 の防止	118.2%	×	・目標未達成。 ・左記取組を継続実施。基準年度を 変更し、工場ごとに区別する。
実績	92,765L				
原 単 位	重機 目標 2.222L/h 実績 3.218L/h 収集車 目標 0.213L/km 実績 0.191L/km			144.8%	×
			89.5%	○	・目標達成。 ・左記取組を継続実施する。
灯油の削減					
目標	359,867L	1.運転技術の向上 2.効率運転のための 教育訓練の実施	100.4%	△	・目標未達成。 ・左記取組を継続実施。効率的なオ ペレーションを構築する。
実績	361,340L				
原 単 位	目標 34.917L/t 実績 34.680L/t			99.3%	○
炭素削減効果の促進					
目標	-	1.新たな炭素モデルの 構築 2.Jクレジット認証に 基づく炭素削減の促進	-	-	・2024年度を基準年とするため、 実績値のみ記載。
実績	94.921 <sub>kg-C/t-wet</sub>				

\*評価の基準 ○：よく出来た △：ある程度出来た ×：あまり出来なかった

実績/目標		取組内容	削減率	結果	評価及び次年度の取組
CO <sub>2</sub> 排出量の削減					
サステナブルジャパン					
電力の削減					
目標	26,584kWh	1.昼食時及び不使用 部屋消灯	110.1%	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>単月では達成した月もあるが、年間では未達成。</li> <li>左記取組は周知を徹底して継続。基準年度を変更する。</li> </ul>
実績	29,269kWh	2.エアコン設定温度 管理			
ガソリンの削減					
目標	13,080L	1.急発進・急加速禁止	77.4%	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標達成。</li> <li>左記取組を継続実施し、更なる低エネルギー運転の向上に努める。</li> </ul>
実績	10,118L	2.空ぶかしの禁止			
軽油の削減					
目標	139,675L	1.アイドリング ストップの徹底	127.4%	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>単月では達成した月もあるが、年間では未達成。</li> <li>左記取組は周知を徹底して継続。基準年度を変更する。</li> </ul>
実績	178,014L	2.計画的収集運搬の 実施			
原 単 位	目標	3.急ブレーキ、急発進 の防止	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集顧客増加による使用量増加のため、今年度より原単位での管理を実施する。</li> </ul>
	実績	0.31			

\*評価の基準 ○：よく出来た △：ある程度出来た ×：あまり出来なかった

実績/目標		取組内容	削減率	結果	評価及び次年度の取組		
廃棄物の削減							
本社							
目標		913.72t	1.コピー用紙の裏面使用の励行 2.ゴミ分別の徹底	140.5%	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単月では達成した月もあるが、年間では未達成。</li> <li>・産廃由来の廃棄物については、処理工程での削減を検討し、基準年度を変更する。</li> </ul>	
実績		1,283.90t					
原 単 位	一 廃	目標	0.0001t/人	3.データ管理化の推進 4.分別・洗浄を行う	103.6%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単月では達成した月もあるが、年間平均では未達成。</li> <li>・左記取組は周知を徹底して継続。</li> </ul>
		実績	0.0001t/人				
	産 廃	目標	0.0882t/t	5.産廃由来物量の把握	142.7%	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標未達成。</li> <li>・処理工程での削減を検討し、基準年度・目標値の見直しをする。</li> </ul>
		実績	0.1258t/t				
サステナブルジャパン							
目標		0.29t	1.コピー用紙の裏面使用の励行	54.6%	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成。</li> <li>・左記取組を継続実施する。</li> </ul>	
実績		0.16t	2.ゴミ分別の徹底 3.データ管理化の推進				

\*評価の基準 ○：よく出来た △：ある程度出来た ×：あまり出来なかった

実績/目標		取組内容	削減率	結果	評価及び次年度の取組		
水使用量の削減							
本社							
上水	目標	981.4 m <sup>3</sup>	1.水を出しすぎない 2.止水を行う	120.1%	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標未達成。</li> <li>左記取組は周知を徹底して継続。削減方法及び基準年度の見直しを検討する。</li> </ul>	
	実績	1,178.2 m <sup>3</sup>					
	原単位	目標	0.147 m <sup>3</sup> /人	3.節水表示を行う	102.4%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間平均では未達成。</li> <li>左記取組は周知を徹底して継続。削減方法及び基準年度の見直しを検討する。</li> </ul>
		実績	0.151 m <sup>3</sup> /人				
工水	目標	14,002.8 m <sup>3</sup>	1.水を出しすぎない 2.止水を行う	139.6%	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標未達成。</li> <li>左記取組は周知を徹底して継続。基準年度・目標値の見直しをする。</li> </ul>	
	実績	19,540.9 m <sup>3</sup>					
	原単位	目標	1.355 m <sup>3</sup> /t	3.節水表示を行う	139.1%	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標未達成。</li> <li>左記取組は周知を徹底して継続。基準年度・目標値の見直しをする。</li> </ul>
		実績	1.885 m <sup>3</sup> /t				
サスティナブルジャパン株式会社							
上水	目標	136.6 m <sup>3</sup>	1.水を出しすぎない 2.止水を行う 3.節水表示を行う	101.7%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間では未達成。</li> <li>削減方法の見直し等を検討する。</li> </ul>	
	実績	139.0 m <sup>3</sup>					

\*評価の基準 ○：よく出来た △：ある程度出来た ×：あまり出来なかった

## [7] 環境関連法規の遵守状況の確認並びに違反・訴訟等の有無

### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規等

法律名		遵守すべき事項	遵守状況
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・産業廃棄物マニフェストの管理	遵法
		・廃棄物処理契約書	
		・一般廃棄物及び産業廃棄物の表示と分別管理	
		・一般廃棄物処理及び収集運搬実績報告	
		・業許可の更新手続き	
2	食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律	・登録再生利用事業者の登録更新	遵法
		・標識の掲示	
3	道路交通法	・運転者の遵守	遵法
4	自動車 NOx・PM 法	・適合車の使用	遵法
5	道路運送車両法	・自動車の構造、装置 ・乗車定員又は最大積載量	遵法
6	浄化槽法	・浄化槽管理者の義務	遵法
7	計量法	・トラックスケールの定期点検	遵法
8	ダイオキシン類対策特別措置法	・排出基準の遵守	遵法
		・特定施設の届出	
9	大気汚染防止法	・ばい煙、ばい煙濃度の測定	遵法
10	消防法	・防火管理者の設置、訓練等の実施	遵法
		・避難通路の確保	
		・消防設備の設置、維持義務	
		・消防用設備の点検及び報告	
11	フロン排出抑制法	・フロン類漏洩防止対策、簡易点検実施	遵法
12	PRTR 制度	・第一種指定化学物質の排出量等の把握及び届出	遵法
13	特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律	・特定特殊自動車排出ガスの排出の抑制	遵法

### 2. 違反・訴訟等の有無

- ・自社の事業活動に関する法令違反はありません。
- ・関係当局からの違反等の指摘は、過去3年間なく、訴訟もありません。

## [8] 総括（代表者による全体の評価と見直し・指示）

### 実施概要

実施日	2025年 7月 1日（火） AM8:00~9:00
場 所	本社会議室
出席者	株式会社関西再資源ネットワーク 社長、環境管理責任者、環境管理担当者
資料・記録	エコアクション21 帳票類一式

### 内容

項 目	環境活動取組内容	代表者の指示事項
環境経営方針	1) 環境経営方針の策定 2) 全従業員への周知	行動方針及びSDGsアイコンを追記した「環境経営方針」を掲示して、各従業員に周知してください。 関連する事項について各従業員に周知してください。
環境関連法規	1) 関連する法規一覧作成 2) 遵守評価	適切に作成されており、遵守されていることを確認しました。
環境活動計画の取組状況	1) 環境経営目標の達成 2) 目標達成のための施策確立 3) 手順書の作成 4) 全従業員への周知 5) 実施状況及び達成状況の把握	各自取組み内容を確認してグループ会社全体での活動を円滑に進められるよう、全従業員に指導を行って運用してください。 達成できた目標は引き続き取組みを継続して実施し、未達成の目標については、原因を究明し更なる創意工夫を検討して実行してください。
教育訓練	1) エコアクション21 基礎教育の実施 2) 目標及び達成状況の共有 3) 緊急時対応訓練の実施	朝礼及び業務の引き継ぎ時等、極力従業員が多く集まれる時間を活用して、各事業所並びに部署の業務に支障が出ないよう教育訓練を検討して実施してください。

### 全体評価

社としてエコアクションへの取り組みを始めて以来、私達のステークホルダーやサプライチェーンの皆様に対して活動の報告を通じて様々なご意見をいただけてきました。このご意見を真摯に受け止め、社の活動方針に組み込むことによって、事業を通じた社会との繋がりを重要な機会として事業活動における環境インパクトの設定・評価・改善に取り組んでまいりました。まずはこの取り組みを実践していただいた社員の皆様に感謝申し上げるとともに、継続することによって更なる発展と持続性を追求していきたいと考えております。

さて、本年は、第3次中期事業計画（2021-2025）の最終年度であり、経営の最優先課題である「成長軌道への原点回帰」「新たな事業機会の獲得」「収益構造の立て直し」に対して正面から向き合い、先送りや妥協をせず、足下をしっかりと見定めた上で実行と結果に拘ってまいりたいと考えております。

現況下の日本経済は、大企業を中心に賃上げが加速しつつある中、デフレ経済から脱却し、成長と分配の好循環への移行（賃上げと投資が牽引する成長型経済）にむけて走り出しておりますが、日本の雇用の7割、付加価値の5割強を占める中小・小規模事業者においては、物価高や人手不足、価格交渉・価格転換の

取引適正化の厳しさなど、依然として厳しい経営環境が続いております。

世界経済に目を向けると、ディスインフレーションが進み多くの先進国で金融政策の緩和措置への転換が見られてきているものの、ウクライナ危機や中東情勢の緊迫化、主要先進国におけるポピュリズムの風による政策転換や不確実性の高まりなど、グローバル・サプライチェーンの下振れリスクも指摘されています。

また、米国の新たな体制においては、既存の価値を根本から変換させるような政策も見受けられますが、私達は「国内外問わず産業構造の変化に伴うビジネスモデルやサプライチェーンの変革と気候変動・カーボン・ニュートラルへの対応が強く求められてくる社会の到来」に対応するといった理念や信念を変えることなく活動を継続していきましょう。

私達は、社会情勢や経営環境が大きく変化する中で「私達の強みの本質と理念・行動」に立ち戻り、「現場」に立ち、自らの「行動」によって、大切な「価値」を顧客と共に構築（価値創造へよりフォーカスする）すると共に、構造的な変化の加速が見込まれるマーケットにおいては「守り」によって「稼ぐ力」を強化し、将来の成長に必要なマーケットにおいては「攻め」によって「稼ぐ力」を創出していかなければなりません。同時に、構造的な人的資本の不足の中であって、生産性の向上をより一層高めることによって、「稼ぐ力」を高めていきましょう。

この3つの「稼ぐ力」を基盤とした上で、事業の環境インパクトを十分に反映させた第4次中期事業計画（2026-2030）を策定し、中期的な観点から事業とそのインパクトをモニタリングし、社会に発信してまいります。私達の成長の原点である「カーボナイズーション（炭素固定）」をイノベーションの中心としてマーケットのキーワードを鑑みると、「ゼロ・エミッション」「リニューアブル・エネルギー」「静脈インフラ」「ネット・カーボン・ゼロ」の4分野が挙げられます。

特に、全てに共通するキーワードである「カーボン（炭素）」は、気候変動の影響が顕著に現れている現在のマーケットとの適合性も高く、多くの世界的企業が既存のビジネス環境において、将来予測される空間軸と時間軸をバックキャストしながらその実現に向けた空間軸の構築に取り組んでいます。

しかしながら、現時点においては未だ「経済」と「市場」のギャップが大きく、このギャップを縮小させるために取られる政策的誘導やマーケット・ステークホルダーからの圧力を新たな事業機会として捉えた上で、市場のニーズに適合するサービスを作り（Product）、その存在を伝え（Promotion）、価値に見合った価格（Price）で届ける（Place）ことにチャレンジしていきましょう。

また、本年は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした大阪・関西万博が開催されますが、万博開催期間中の静脈インフラを担う1社として、これに参画・貢献してまいります。

私達は、2050年のカーボン・ニュートラルに向けて「Waste to Carbon」を基軸としたビジネス・プラットフォームの構築と提供により、新たな価値を生み出すことによって顧客との共創を実現していきたいと考えております。引き続き、エコアクションの活動を通じてこれを社会に発信し、サプライチェーンとの繋がりをより強固なものにした上で、共に新たな価値を創出していきましょう。

## [9] 環境活動の紹介及び緊急事態対応訓練

### 1. 情報の公開

資源、環境、廃棄物、当社に関するニュースや情報を月に一度「KSN 通信」として配信させていただいております。このような取組みは 2025 年 3 月で 17 年目を迎えました。今後も、配信を続け、お客様やステークホルダーの皆様に情報をお届けいたします。

【掲載 URL : <https://www.ksn.ne.jp/johokokai/ksntsushin/>】



こんにちは。いつも弊社をご利用いただき、誠にありがとうございます。  
二十四節気のひとつである「白露（はくろ）」は、毎年 9 月 7 日から 22 日ごろの期間を指し、「草花に朝露がつき、白く輝いて見え始めるころ」という意味があります。このころから夜の気温が下がって空気中の水蒸気が冷やされた水滴が葉や草花につくようになり、朝晩に秋の気配を感じられるようになると言われていますが、まだまだ日中は厳しい残暑が続くようなので、暑さ疲れなど体調には十分ご注意ください。



#### ■ KSN ニュース

#### ■ 収集運搬車(パッカー車)を新調いたしました

KSN グループは、食品等のリサイクル事業とともに廃棄物の収集運搬事業を行っており、先般、大阪市・堺市内の収集運搬業務にあたるパッカー車 4 台を新調いたしました。

これからも常に安全な運転・収集作業を心がけ、廃棄物の適正処理と再生利用の促進に取り組み、お客様にご満足いただけるサービスをご提供できるよう精励してまいります。



#### ■ 交通安全だより

#### ■ 令和 6 年秋の全国交通安全運動

令和 6 年 9 月 21 日（土）から 30 日（月）までの 10 日間は、令和 6 年「秋の全国交通安全運動」が実施されます。この運動は、広く国民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、国民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより交通事故防止の徹底を図ることを目的としており、今回の全国重点実施事項は次の 3 点になります。

- (1) 反射材用品等の着用推進や安全な横断方法の実践等による歩行者の交通事故防止
- (2) 夕暮れ時以降の早めのライト点灯やハイビームの活用促進と飲酒運転等の根絶
- (3) 自転車・特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

発行元：株式会社関西再資源ネットワーク  
〒592-8331  
大阪府堺市西区築港新町 4 丁 2 番 5

TEL : 072-320-9001 (代表)  
FAX : 072-320-9004

## 2. 消火設備等の確認

日 時	2024年6月28日（金）
実施事項	消火設備及び警報装置の動作・安全確認



## 3. 緊急事態対応訓練の実施

日 時	2024年6月27日（木）
緊急事態発生、 訓練又はテスト の内容	KSN 社内 内容： 従業員を招集し、防火安全対策及び消火器の設置場所・使用方法についての確認・点検を行い、火災発生時における避難・初期消火等に対応する訓練を行った。
担当部署	ソリューション本部
責任者	吉村 悠
問題点・改善点 再発防止策確認 事項	<ul style="list-style-type: none"><li>○火災等発生時の対応手順について作業員に説明</li><li>○火災報知機、消火器の使用法および使用期限・設置場所等の点検・確認</li><li>○定期的な防災訓練の実施</li><li>○夜間/休日の対応および連絡について説明</li><li>○サステイブルジャパンの緊急時の本社への連絡について説明</li></ul>



日 時	2024年9月26日（木）
緊急事態発生、 訓練又はテスト の内容	SJ 社内 内容： 従従業員を招集して消火器の設置場所等の確認・点検を行い、火災発生時における避難・初期消火等の 対応ならびに消火器の使用方法について説明・訓練を実施した。
担当部署	事業推進部
責任者	伊藤 克博
問題点・改善点 再発防止策確認 事項	○火災等発生時の対応手順について作業員に説明
	○火災報知機、消火器の使用方法および使用期限・設置場所等の点検・確認
	○定期的な防災訓練の実施
	○夜間/休日の対応および連絡について説明



最後までご覧いただき、ありがとうございました。

次回の環境活動レポートの発行は、2026年7月の予定となっております。